

巻頭言

社会医療法人 近森会
理事長 近森 正幸

はじめに

2016年4月の診療報酬改定で7:1の看護師を揃えれば診療報酬が入るというストラクチャー評価からアウトカム評価が強化され、日本の医療が大きく変わろうとしています。私ども近森会グループでも救急や紹介患者の受入れ増加や在院日数の短縮をすすめ、諸経費のコストカットや2017年10月には地域包括ケア病棟34床の開設など行わざるを得なくなりました。

突然のトップの交代

このような時代の転換期に頑張っていた近森病院院長 近森正康が不祥事で辞めざるを得なくなり、2月9日付で近森正幸が近森病院院長を再度、兼務することになりました。若い力で近森病院の改革を進めていた矢先のことで、残念でなりません。

さらには、社会福祉法人ファミーユ高知 高知ハビリテーションセンター センター長の上田真弓がスタッフに対するパワハラ問題で9月25日解任され、西岡由江センター長が就任、しごと・生活サポートセンターウェーブ センター長には沼 慶子、副センター長に中越太一が就任しました。突然のトップの交代で職員は動揺しましたが、迅速な対応を行い、現在は以前と同じように落ち着いて仕事に励んでくれています。

高知の地域医療も大きく変化

2018年4月の診療報酬改定ではアウトカム評価がさらに強化され、急性期医療では7:1 看護の重症度、医療・看護必要度が30%となり、回復期ではFIMによる改善率、在宅復帰率の強化、慢性期では医療区分2、3の重度の患者が80%以上でなければ病院として存続できない状況になっています。

その為、すべてのステージで重症の患者を数多く集め、早く治して在宅へ帰すという競争が始まっており、在院日数の減少から稼働率も低下、一般病床の減少や地域包括ケアへの転換、慢性期では廃院や施設である介護医療院への転換が始まっています。

人口が減少し、病院、病床の多い高知が他の地域に先駆けて大きく変わり、世界で一番、病院、病床の多い、世界遺産の高知の地域医療が欧米型の地域医療、数少ない急性期基幹病院と地域包括ケアを担う医療機関や施設に変わりつつあり、医療界は何が起きても不思議でない激動の時代が始まったように思います。

時代の変化に対応する近森会グループ

～ハード面の対応～

そういう時代の変化を早くから予測し、近森会グループは2008年から7カ年計画で近森病院をはじめ近森リハビリテーション病院、近森オルソリハビリテーション病院、近森病院附属看護学校の全面的な新築、増改築工事を行い、これから20年、30年耐え得るハードを作り上げました。5月には近森会グループで最後に残った、しごと・生活サポートセンターウェーブが旧松田病院跡から北本町に新築移転しています。

～ソフト面の対応～

ソフト面でも近森病院は2016年には338床から452床に増床し、総合心療センターの精神科104床を60床の急性期病棟に特化し、本院に統合、512床の病院になっています。病床の増加に伴い入院患者数は1.3倍に増加、救急搬入件数も7,000件と

中四国の救命救急センターの中で倉敷中央病院に次いで 2 番目となり、救命救急医療の分野では、地域一番店となることができました。

近森病院は救命救急医療に特化して近森リハビリテーション病院や近森オルソリハビリテーション病院と垂直統合を行い、在宅復帰を推進、20 年以上前から地域医療連携を進め、最近はより個別具体的で密接なアライアンス連携を推進し、連携病院から医師、看護師が転院患者を診に来られたり、近森病院から紹介元の病院に専門医が訪問する活動も行っています。

さらには 2000 年から ICU などの重症病棟を整備し、重症で手間のかかる高齢患者を看護師の多い重症病棟で診て、落ち着けば一般病棟へ移すという病棟連携を行い、現在ではベッドコントロール看護師が中心になってスムーズな転棟を行っています。

2003 年には栄養サポートチームを開始することで本格的な多職種による病棟常駐型チーム医療がスタートしました。現在、薬剤師、リハスタッフ、管理栄養士、臨床工学技士、メディカルソーシャルワーカー、歯科衛生士などの医療専門職が病棟に常駐し、医師、看護師の周辺業務を行い、医師、看護師はコアの業務に専念できる体制を取っています。2019 年 4 月には岡山大学病院 医療支援歯科治療部より歯科医師が派遣され、チーム医療の最後のピースが入ったように思います。このように病院や病棟、スタッフの機能を絞り込むことで医療の質を上げ、労働生産性を高め、病院機能を整備し、スタッフの充実を行ってきました。

～人材育成に力を入れて～

2 月 10 日には第 1 回の近森会グループ学術集会が開催され、医療スタッフの臨床現場での先進的な取り組みや活発な活動の発表がされました。3 月 9 日には近森病院附属看護学校にとって初めての卒業式が挙行され、1 期生 36 名が元気に巣立ってくれました。3 月 26 日には 12 期生の初期研修医 10 名の修了式が行われ、8 名が高知に残り、医師として活躍してくれています。2019 年 4 月からは内科、整形外科、救急科での専門医育成がスタートします。看護師特定行為研修も早くから取り組んでおり、6 月には 3 期生 8 名を迎え看護師特定行為開講式が行われました。9 月には近森病院の医療専門職 40 名が 56 のテーマで地域に出向いてお話をする「ひろっぱ講座」が誕生し、老人クラブなどの地域での集まりに利用して頂いております。将来は郡部での集まりや病院などの医療機関でもお話しさせていただければと願っています。

おわりに

時代が大きく変わり、今までの発想にとらわれない自己変革が求められる時代になりました。医療の質と労働生産性を上げ、それを限らない経営改善で支え、高知の救命救急医療の基幹病院として県民、市民のために最後まで生き残り責務を果たしていきたいと決意しています。自己変革を限りなく続けることが出来る病院こそが生き残ることができます。皆さんと共にこれからも元気に歩んでいきますので、これからもどうぞよろしくお願いします。

2019 年 4 月